

項目	観点	教科書名					
		NEW HORIZON(2・東書)	SUNSHINE(9・開隆堂)	TOTAL ENGLISH(11・学図)	NEW CROWN(15・三省堂)	ONE WORLD(17・教出)	COLUMBUS(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○言語や文化に対する理解を深めるために、どのように配慮されているか。	・世界の多くの国が取り上げられている。非英語圏についても取り上げられていて、生徒の興味・関心を高めようとする工夫が見られる。 ・環境問題、福祉、技術を取り上げ、言語文化に対する理解を深められるように配慮されている。	・世界の多くの国が扱われていて、世界の文化に触れる機会が多く設定されている。 ・環境問題やボランティア、歴史など実話を基に構成されている。	・取り上げられている国の数が多い。発展途上国の世界遺産が紹介されている。 ・実在の人物のエピソードから、ボランティアや環境問題への意欲を高めようとする工夫が見られる。	・扱われている国の数は多くないが、生徒の興味を引くような文化紹介に工夫が見られる。 ・実在の人物のエピソードを基にした文化紹介で、出来事がよりわかりやすくする工夫がされている。	・世界の文化について取り上げられている地域があまり多くないが、日本の伝統文化について取り上げられている物が多い。	・世界の文化について取り上げられている国があまり多くないが、温暖化等の環境問題や戦争問題について取り上げて、生徒の理解を高めようとする工夫をしている。
	○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために、どのように配慮されているか。	・1学年から3学年まで4技能をバランスよく配列している。特にPresentation(ひとまとまりの表現活動)は3年間を通して計画的に組み立てられ、聞く・読む、書く・話すの段階を追って進められるようになっている。 ・Daily Scene(本課外での会話場面教材)として会話表現についても3年間を通して計画的に設定されている。 ・各課では、本文が左ページに、目標文が右ページにあり、基本練習に続いて話すこと、書くことが用意されている。コミュニケーション活動がしやすい構成になっている。	・1学年から3学年まで4技能を高めるためにバランスよく配列されている。特に、My Project(ひとまとまりの表現活動)は3年間を通し計画的に配置され、書く・話すだけでなく、聞く・読む活動も組み込まれている。また、学び合いの場も組み込まれている。 ・各課では、左ページに目標、対話形式の目標文、聞く活動、話す活動、右ページに本文、読む活動、書く活動となっている。聞く活動に新出語句が多いため、それらの語句の定着に工夫が必要となる。	・1学年から3学年まで聞く・話す・読む活動をバランスよく配列している。書く活動については3年間を見通して計画されている。 ・生徒にとって身近で分かりやすい場面を豊富に設定しており、丁寧である。 ・各課のReview(復習)はワークブックの体裁で構成され、コミュニケーション的な学習活動だけではない個別の学習が行える。	・どの学年も4技能をバランスよく配列している。特に、各課のまとめとして4技能を生かす工夫がなされている。 ・各課の扉ページにその課で学ぶことが明示され、生徒が学習の見通しをもてる工夫がなされている。また、その課に関連した絵や写真が掲載され、既習の文でそれらについて問う構成が導入に生かされる配慮がなされている。 ・コミュニケーション活動のための語彙等も豊富に準備され、生徒の意欲を高めることができる。	・1学年から3学年まで4技能をバランスよく配列している。書くことのコミュニケーション活動については、3年間を通して計画的に組み立てられている。 ・各課では、左ページに本文、目標文があり、右ページにコミュニケーション活動が配列されている。 ・各課の最後にまとめのコミュニケーション活動が用意されている。	・各課の表紙に目標が明記され、生徒は学習の見通しをもつことができる。 ・リーディング前の課題が準備されており、生徒の学習意欲の喚起に効果的である。 ・左ページに本文、読む活動、右ページに目標文、聞く・話す・書く活動がまとめられている。各活動は教科書に書き込めるようになっており、各活動がスムーズに進められる。
	○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うために、どのように配慮されているか。	・各課とも、本文から先に導入する形をとって、目標文の繰り返し練習をし、新言語材料を聞く、話す、書く活動は後から続く構成である。 ・本文の題材内容バリエーションは豊富である。	・各課で、目標文の学習を先行させ、新言語材料を聞く、話す、読む、書く活動がまんべんなくできる構成となっている。書くことについては、いくつかの課ごとに行うProject(ひとまとまりの表現活動)に結びつく。また、本文の題材ではバリエーションが豊かで、本文を読んでみたいという意欲を喚起させる。	・各課とも、本文から先に導入する形をとって、新言語材料を聞く、話す、書く活動は後から続く構成である。本文の内容を確認する質問の配置により、内容の確認を行い、新言語材料を活用する場面へと移行する配置となっている。	・各課では、基礎・基本の定着のための部分と、さらに新言語材料の活用を図るために、話す・読む・書く活動が組み込まれている。学年に応じて入り、コミュニケーション能力の基礎を養うためのワンポイント的な要素が盛り込まれている。	・各課とも、本文から先に導入する形をとって、目標文や新言語材料を聞く、話す、書く活動は後から続く構成である。 ・4技能のこつを学ぶページや課のまとめのProject(ひとまとまりの表現活動)では、CAN-DOの視点が明記されている。 ・書く活動においては、英字新聞を作るなど、工夫が見られる。	・各課とも、本文から先に導入する形をとって、目標文の導入の前に本文の内容を確認する構造となっている。新言語材料を聞く、話す、書く活動は、目標文の導入後に続く。 ・書く活動においては、旅のしおりを作るなど、工夫が見られる。
	<基礎・基本の定着のための工夫> ○コミュニケーション能力の基礎を養う上で、基礎的・基本的な内容の取扱いにはどのような工夫が見られるか。	・目標文提示の次に基本練習があり、パターンプラクティスを行うことで、定着を図るようになっている。 ・1年ではすべてのパートで4技能を学習できる活動があり、無理なく基礎・基本を身に付ける配慮がされている。 ・Daily Sceneでは、順番通り学習することで理解から表現へがスムーズにできるようになっている。	・目標文が生徒の生活に身近な内容、かつ1年から3年まですべて対話文になっているため、使用場面を理解しやすくする工夫がなされている。 ・目標文の次に生徒にとって比較的理解しやすい聞くの活動をもってきて、Writingの活動を最後にもつてくることによって抵抗なく学習できるように工夫してある。	・1年生初期は本文の対話の吹き出しの中に写真や絵が取り入れられており、内容をイメージしやすくなっている。 ・本文→聞く→話す→書くの構成になっており、抵抗なく活動できる工夫がされている。 ・Check It Out(ひとまとまりの復習)では、文が品詞ごとに色分けされており、日本語との語順の違いを理解しやすくする工夫がされている。	・1年1～3課では、聞く→目標文→本文→話す→書くの活動構成になっており初期学習者が無理なく学習に取り組める工夫がされている。 ・目標文の次にDrillがあり、目標文を運用した単純なリスニングから読む、書く活動に展開されており、4技能を結びつける活動への配慮がされている。	・目標文に対する日本語の説明が詳しく書かれている。 ・聞く、話す、書くのそれぞれの活動が結びついた活動があり、音と文字の一致を理解しやすくする工夫が見られる。 ・別冊のEssentials(補助教材)を活用することで、反復学習がよりたくさんできるようになっている。	・各課の扉に、見通しをもって学習することができる工夫がされている。 ・1年2課までは本文の中で自然に基本表現の使用場面を理解できるようにしたあとで、まとめて基本表現の定着を図る活動が提示されている。 ・聞く活動は1回目、2回目にわかれていたたり、聞く言語活動をその後の言語活動につなげる工夫がある。

項目	観点	教科書名					
2 内容の程度及び取扱いについて		NEW HORIZON(2・東書)	SUNSHINE(9・開隆堂)	TOTAL ENGLISH(11・学図)	NEW CROWN(15・三省堂)	ONE WORLD(17・教出)	COLUMBUS(38・光村)
	○小学校外国語活動からの円滑な接続を図る上で、どのような工夫が見られるか。	・冒頭部分で小学校英語活動との接続と中学校での学習への期待感を高めると共に、指導に必要な指導資料を網羅して、関心を高めて学ばせる工夫が成されている。付録部分+0課から本課に入る。	・新しい教科書への導入と使い方を示す。そののち、教室での英語でのやりとり、聞くことに導く。徐々に英語を書くことを意図して編集されている。辞書の使い方も早い段階で示される。	・世界中で英語が用いられることから始まり、教室での英語に結びつけている。小学校で学んだ英語を聞くことから、自己紹介、文字と英語の音をつなぐ学習に移行できている。	・ページに従って指導することで、容易に中学校での指導に移行できる構成となっている。 ・読み物を持つ本課と学習活動だけの本課がある。	・学習活動をしながら本課に入るような構成になっている。 ・辞書指導は巻末に扱われている。 ・教員が教科書順に指導する構成となっている。	・「様々な場面」での聞き取り中心の学習は接続の意図がある。 ・従来の中学校での英語学習のスタートという面をもっている。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○興味・関心を喚起し主体的な学習を展開する上で、どのような工夫が見られるか。	・文が平易であり、理解しやすい。 ・登場人物らが違う文化をもつ友人との体験を通して、異なる文化に気付く題材に工夫が見られる。 ・場面の設定が実際に近く、生徒が想像したり、自分のことに置き換えて表現したりしやすい内容である。	・日本や世界の文化について、また環境や教育についての題材を取り上げ、読んだ後に生徒が自分の考えを述べたくなる題材を多く扱っている。 ・巻末にCAN-DOリストを設け、学習を通して何ができるようになるかが明確になっており、目標をもって主体的に学習するように工夫されている。 ・キャラクターなどを取り入れ、興味を持たせる工夫が見られる。	・文が平易であり、理解しやすい。4技能をバランスよく学習できる構成になっており、最後に自己表現文を書く構成になっている。 ・実在の人物についての物語を取り上げたり、写真や実際の点字を用いたりすることで、本物の情報に触れることができる工夫が見られる。 ・扉にCAN-DOのポイントが書かれており、できるようになることを意識して主体的に学習する工夫がされている。	・入門期には、聞く活動を初めに行ったり、読む単位では扉で読む前の問いを用いたりするなど、生徒が本文に興味をもつための工夫が見られる。 ・聞く→読む→話す→書くという流れで、聞いたり読んだりしたことについて、生徒の興味を喚起し、表現させるための工夫が見られる。	・身近な話題や伝統、歴史などについて取り上げ、知的好奇心を刺激する題材の展開に工夫が見られる。 ・巻末にCAN-DOリストを設け、学習を通して何ができるようになるかが明確になっており、目標をもって主体的に学習するように工夫されている。	・登場人物の日常を中心として1年生から3年生までのストーリーが展開するため、登場人物に親しみをもって読み進められる工夫が見られる。 ・扉に写真や読む前の問いを用いて、題材に対する興味を喚起する工夫がされている。 ・実際にありそうな会話を中心に構成することで生徒の興味を喚起する工夫がされている。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○生徒の発達の段階や学習段階を配慮する上で、発展的な学習に関する内容の程度及び取扱いにはどのような工夫が見られるか。	・各課で学習した内容を活用し、発達段階に応じて自分のことや体験したことなどを発信する活動をとおり、表現力が身に付くように工夫されている。	・各学年とも学期に1回発達段階に応じた「書く」、「話す」活動が配置され、情報発信する力が身に付くように工夫されている。	・課のねらいが示されていて何を学習するのかが理解しやすい。 ・各学年4回、4技能を統合的に活用できるように工夫されている。	・学んだ表現を総合して生かすProjectが学期1回設定されていて、4技能を統合的に活用して情報発信力が身に付くように工夫されている。	・自分のことについて作文、発表するだけでなく、情報整理をして表現する活動が取り入れられているところに工夫が見られる。	・Go for It!(ひとまとまりの表現活動)では、作文スピーチだけでなく、ディベートも取り入れられており、表現力を高める活動に工夫が見られる。
3 構成・配列・分量	○題材、言語材料の配列には、どのような特色があるか。	・身近な話題から始まり、段階的に日本文化や世界各地の文化に触れる内容になっている。 ・会話表現が3年間を通して計画的に配列されている。	・身近な題材から、世界各地の文化、人の生き方等を学べる題材設定になっている。 ・1課をアルファベットの学習とし、音声から文字への移行の工夫が見られる。	・身近な話題から、日本の文化、世界の文化を学べる題材設定になっている。 ・小学校の外国語活動からの移行を円滑に行うために、一般動詞から導入されている。 ・音声と文字を一致させる活動が充実している。	・日本の文化、学校生活を外国に発信するような題材から外国の文化、人の生き方まで幅広く題材が設定されている。 ・音声と文字を充実させる活動である。	・身近な話題から世界の文化まで、3年間を通して同一の登場人物で課が構成されている。 ・各学年で身に付けたい4技能のコツがまとめられている。 ・小学校の外国語活動からの移行を円滑に行うための工夫がなされている。	・身近な話題から、日本の文化、世界の文化まで3年間を通して同一の登場人物で各課が構成されている。 ・小学校の外国語活動からの円滑な移行が工夫されている。
	○言語材料の分量には、どのような工夫が見られるか。	・言語活動を円滑に行うための補足的な語彙や別の表現が豊富に取り入れられている。	・言語活動を円滑に行うための補足的な語彙や別の表現が豊富に取り入れられている。	・基本表現を用いた言語活動を行うのに必要な語彙が豊富に取り入れられている。	・言語活動を円滑に行うための補足的な語彙や別の表現が豊富に取り入れられている。	・言語活動を円滑に行うための補足的な語彙や別の表現が豊富に取り入れられている。	・コミュニケーションに役立つ表現が、豊富に取り入れられている。
4 表記・表現	○英語の表記・表現には、どのような工夫が見られるか。	・対話活動では、ある程度まとまった量の対話を場面ごとに分けて表記している。アレンジできるところは青い下線を入れるなどの工夫が見られる。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。 ・発音記号は色を変えて表記している。	・対話活動では見開き2ページを使ったフローチャート形式をとり、対話の流れをわかりやすくする工夫がある。 ・一つ一つの表現を絵でわかりやすく表現している箇所が見られる。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。	・対話活動では吹き出しとイラストを使って役割や会話の流れをわかりやすく表記している。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。 ・発音記号は色を変えて表記している。	・対話活動では、吹き出しとイラストを使って役割や流れをわかりやすく表記している。アレンジできる箇所は下線が引かれている。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。	・対話活動では、色分けした表で表記し、短い文で表現している。 ・本文では実際の会話で使われる表現、慣用句が多数取り入れられている。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。 ・発音記号は色を変えて表記している。	・対話活動では、色分けした表で表記し、短い文で表現している。 ・本文では実際の会話で使われる表現、慣用句が多数取り入れられている。 ・1年時は手書き風文字が使われており、正しい文字の定着、印刷文字との混乱を防ぐ工夫がされている。 ・発音記号は色を変えて表記している。
	○日本語の表記・表現には、どのような工夫が見られるか。	・平易な常体文で表記し、ゴシック体の強調文字が用いられている。	・本文と学習活動のページを明確に分けて、英文が強調されるように日本語のゴシック体に強調を用いない。	・通常の課では常体で統一されるが、文法説明では敬体を用いており、分野別に言い回しを変えている。	・本課本文と学習活動、文法説明で余白を生かして整理されている。基本本文を日本語で丁寧に説明している。	・本課本文と学習活動を余白を生かして整理されている。本文の内容をつかむためのヒントを示している。	・本課本文と学習活動を余白を生かして整理されている。付加的な説明などはない。

項目	観点	教科書名					
		NEW HORIZON(2・東書)	SUNSHINE(9・開隆堂)	TOTAL ENGLISH(11・学図)	NEW CROWN(15・三省堂)	ONE WORLD(17・教出)	COLUMBUS(38・光村)
5 体裁・使用上の便宜	○目次や見出し、文字の大きさ、行間などは、どのように配慮されているか。	・各課毎に「～しよう。」との表記で目標が示されている。また、文法のポイントが分かりやすい色使いで大きめの文字で示されている。 ・音読の回数をチェックできる積み木で視覚的に確認できる工夫がなされている。	・扉に学ぶこととできるようになることが明確に示されている。右のページのベースの色を茶色にして、見やすいよう工夫されている。 ・丸みを帯びたフォントを用いており、親しみやすいように工夫されている。	・扉で授業で学ぶことを提示している。3年でも話すところはゴシックのままにしてあり、親しみやすいよう工夫されている。 ・左ページ下に文法が見やすい色でまとめられている。	・目標を各ページで明確に示している。 ・絵や写真が大きくよい。 ・活動ごとに色分けや縁取りがされており、見やすくなるよう配慮されている。	・扉ページで目標を明確に示している。色が少なくシンプルな構成であり、場面の説明も英語で示すなど、情報を厳選することで見やすいように工夫されている。	・扉ページで目標を明確に示している。色が少なくシンプルな構成であり、場面の説明も英語で示すなど、情報を厳選することで見やすいように工夫されている。
	○付録の構成、絵や写真のレイアウトなどは、どのように配慮されているか。	・CAN-DOリストが各学年の巻末についていて、生徒が到達度に気づけるようにしている。 ・クイックQ&Aがあり、パターンプラクティスに有効である。 ・色使いに配慮を感じる。	・イラストが生徒の興味を引くような絵になっている。 ・色弱者への色の配慮が見られる。	・CAN-DOリストがついている。 ・語順等の英語のしくみを絵や色を使って説明している。 ・語彙数が多い。	・Essentialsが各学年毎についていて、学習した文法や語句等について復習できるようになっている。	・基本表現の一覧が掲載されている。 ・CAN-DOリストや重要表現を扱った別冊の資料がる。	・基本表現の一覧が掲載されている。 ・各学年の文法のまとめがわかりやすくまとまっている。